39 世界で活躍した西岡京治
昭和時代～平成時代 (20～21世紀)

「幸せの国」ブータンで最も有名な日本人

ヒマラヤ山脈の南側、中国とインドの間にブータン王国という国があります。人口は約70万人、面積は九州よりも少し小さいくらいですが、経済的な発展だけをめざすのではなく、国民の幸福感を向上させることを目標とした「国民総幸福量(GNH)」という考え方を国連でスピーチして世界的に注目されている国です。

このブータン王国で28年の長きにわたって農業指導に携わり「ブータン農業の父」と称えられているひとりの日本人がいます。それが西岡京治です。

ブータンの民族衣装を着る西岡京治（西岡里子氏提供）
公の場で民族衣装を着ることが義務付けられ、体に巻きつける「カムニ」は位で色が異なります。赤はダショーの称号をもらったものが着ることができ、パタン（剣）を持つことも許されます。

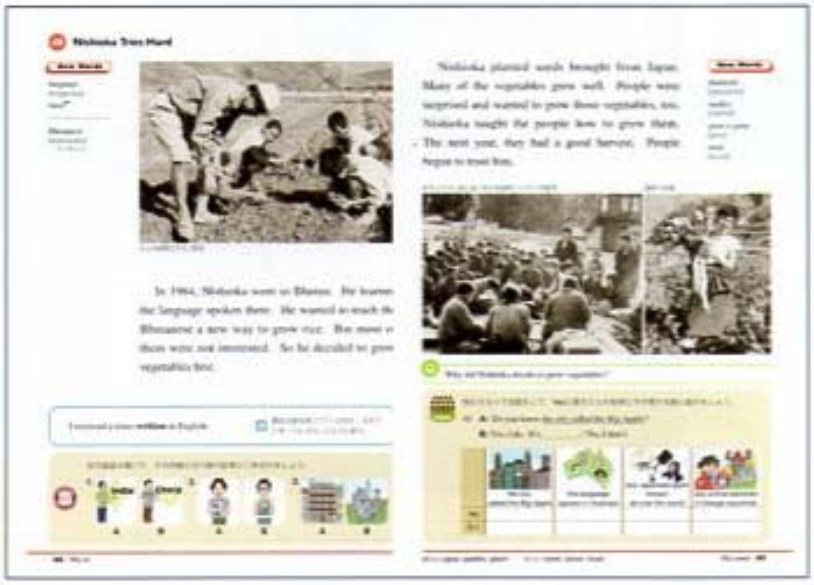
植物への興味と農業への想い

西岡は、1933（昭和8）年に京城（現在のソウル）で生まれ、1945（昭和20）年に帰国し、父の出身地である八尾市に移り住み、市立八尾中学、府立八尾高校へ進みました。この頃から植物に興味をもっていて、休みの日には高安山などに出かけて植物を採取し、八尾周辺の植物はほとんど標本にしていました。

その後、大阪府立大学農学部を卒業し、海外技術協力事業団（現・国際協力機構〈JICA〉）から農業及び園芸専門家としてブータン王国に派遣されました。

ブータンの主な産業は農業ですが、山地が多いため耕作地が少なく、農法も古いものでした。西岡はまず、政府から提供された小さな試験農場に、日本から持っていった米と野菜の種をまき、現地の人を指導しながら、立派な作物をつくりました。このことが国王に認められて、国の農業計画に参加するようになります。

西岡は小型農業機械の導入により、野菜や果物の増産を図り、その輸出を進めるとともに、稲作の省力化と改善により収量を以前の二倍にまで高めました。



教科書に記載された西岡京治（学校図書株式会社『TOTAL ENGLISH』中学３年生用より）
西岡京治の活動は、教科書に取り上げられました。

ハウス栽培

実った野菜とともに
（西岡里子氏提供）

その後、ブータン政府の第４次５か年計画を受け持ち、発展の遅れていた南部山間部の多くの焼畑農民と話し合い、彼らとともにジャングルを開墾し、在来手法を使って、籐の蔓を鉄ロープに替え沢山の吊橋を架け、道路を造り、水路を引き水田や畑をつくり農民たちが定着し安定した生活ができるように導きました。

西岡の農業改革により、米や野菜の収穫量が飛躍的に増え、住民の収入が増えました。食生活の改善で栄養状態も向上し、国民の健康増進にも大きな貢献をしました。こうした成果から、外国人として初めて「ダショー」という称号を贈られました。ダショーとは「最高に優れた人」という意味で、ブータンでは非常に名誉なことです。

西岡は、1992（平成４）年にブータンで59歳の若さで亡くなりました。お葬式は国葬で行われて、皇族や閣僚などが参列するなど多くの人々が別れを惜しみました。

2014（平成26）年７月には、彼の功績を称える記念館がブータンのパロにある国立農業機械化センターに開設されました。